

## 留学生と共に「和歌山の世界遺産を学ぶ」

「紀伊山地の霊場と参詣道」がユネスコの世界文化遺産登録 10 周年にあたる今年、和歌山大学国際教育研究センターは、「和歌山の世界遺産を学ぶ」という事業を初めて開催し、9月5日、6日に、留学生 31 名、日本人学生 4 名が熊野三山や熊野古道を訪れる研修旅行に参加しました。

この事業は、留学生がせっかく和歌山で学んでいるのに、和歌山の世界遺産を体験することなく帰国してしまうことがあると聞き、たいへん残念に思ったことがきっかけで企画されたものです。日頃から留学生の生活支援や交流事業等でたいへんお世話になっている NPO 法人 WIN コンコードさんにご相談し、企画段階からさまざまなアイデアをいただき共催事業として計画しましたところ、幸いにも、公益財団法人中島記念国際交流財団から助成をいただけることとなり、実現することができました。



<事前セミナー>



<世界遺産センター大濱先生>

研修旅行に先立つ 8 月 29 日には、事前セミナーとして、熊野の歴史や地理を WIN コンコードの後藤理事長から説明をいただき、研修旅行に向けた心構えをすることができました。今回の企画の中で、和歌山県世界遺産センターにご相談し、熊野古道の保全活動の一部として「道普請（みちぶしん）」に参加させていただくこととなり、和歌山県教育庁文化遺産課からも、さまざまな国や地域から来ている学生たちが参加する「道普請」に関心を寄せていただけていました。ただ、現地の天候によっては「道普請」ができないこともあるため、あとは天気次第ということで雨にならないことを願っていました。

9 月 5 日の朝、世界遺産センターからお電話があり、作業予定地の本宮町は前日、当日と雨となり、「道普請」はできないというご連絡でした。熊野古道の保全に自ら関わるという貴重な機会に参加できないのは残念でしたが、せめて作業予定地も含めて実際に熊野古道を歩く体験ができるよう、雨がひどくならないことを祈りつつ、現地に向かいました。

田辺 I.C. で高速を降り、本宮へ向かう道中、3 年前の 2011 年 9 月に山崩れが起きた箇所への復旧工事が何か所も行われていることを見て、その被害の甚大さが思い起こされました。

和歌山県世界遺産センターでは、大濱 新先生、坊 信次先生からお話をうかがい、

世界遺産「紀伊山地の霊場と参詣道」について理解を深めることができました。世界遺産とは「顕著な普遍的価値」を持つ遺跡、建造物、自然などで、世界の人々が協力して守り、未来に伝えていかなければならない「人類共通の宝」であること、守るだけでなく、公開し、人々にその価値を伝えられるものであることが要件となっていることなどを学びました。また「紀伊山地の霊場と参詣道」については、3つの霊場である熊野三山、高野山、吉野・大峯、3つの参詣道である熊野参詣道、高野山町石道（ちょういしみち）、大峯奥駈道（おくがけみち）と文化的景観から構成されるものであること、今回の研修旅行で訪問する熊野三山については、自然への信仰を起源に持ち、川や樹木、岩、滝への信仰や、3つの神社がそれぞれの神を祀り、神仏習合が盛んになることでより多くの人々の信仰を集めるようになった背景をお話しいただきました。日本古来の神道と仏教との融合は日本独自の神仏習合という形で発展し、熊野では今も神社と寺が同じ敷地や隣接しており、季節の祭りも一緒に行うような形で息づいていることがわかりました。熊野参詣道については、道中の九十九王子や王子社の存在について学び、日本では「九十九」は「多い」ことを意味することも知りました。文化的景観については、紀伊山地の豊かな自然の中で何世代にもわたって引き継がれ、大切にされてきた信仰や人々の生活とかかわって形づくられた景観が世界遺産登録にあたって高く評価されたことも紹介されました。また、世界遺産登録の際の評価基準を教えてくださいました。

- ・建築物や技術の発展において重要な文化交流を示すもの。

⇒霊場に建築された社寺と周囲の文化的景観は、日本古来の神道と伝来した仏教との融合によって生まれた独特なもので、東アジアにおける宗教文化の交流と発展を示すもの。

- ・ある文化的伝統や文明の貴重な証拠。

⇒社寺の境内や参詣道沿い、王子社跡には多くの宗教儀礼に関する考古学的遺跡が存在し、現在も宗教儀礼が行われている。さらに、今は失われた伝統と現在でも継承されている伝統との複合のあり方を示す貴重な事例である。

- ・人類の歴史の上で、重要な段階を物語るすぐれた実例。

⇒霊場に建築された寺社は、日本の多くの地域における寺社の建築に深遠なる影響を与えた独特の建築形式を生み出す背景となった。

- ・顕著で普遍的な価値を持つできごと、生きた伝説、信仰、文学的作品などと密接な関連があるもの。

⇒紀伊山地の遺跡と森林景観は、1,200年以上の期間にわたって、永続的かつ並はずれて良好に記録された信仰の山の伝統を反映している。（以上、和歌山県世界遺産センター発表資料を参照）

また、今回は天候により参加できませんでしたが「道普請」についてもご説明いただき、保全の大切さ、保全活動を通じた世界遺産への理解、協力して守ることの大切さを体験してもらったことが目的であるというお話しをうかがいました。

田辺市熊野ツーリズムビューローからは、ブラッド・トウルさんが来てくださり、英語

で解説や通訳をしてくださったおかげで、日本語だけでは少し難しく思われる説明も理解が進みました。

そして、バスで平岩口バス亭まで移動し、そこから三軒茶屋まで舗装道路を登り、いよいよ世界遺産登録地である熊野古道を実際に歩きました。世界遺産センターからは大濱先生、坊先生、そしてブラッドさんがご一緒してくださり、途中の要所要所で解説をしていただき、熊野古道に対する理解を一層深めながら歩くことができました。天気が少し回復し、木立の中に光が差し込む様子に足を止め、留学生の多くは「木漏れ日」の言葉を初めて耳にすることができました。ここが江戸時代の道、ここは平安当時からの道といったお話しに、時を越えてその当時の人々がどのようにして熊野詣をしたのか、その困難に思いを馳せることとなりました。道普請を行う予定であった場所も通り、ボランティアで行われる保全活動など、人々の力によってこうした歴史ある参詣道を守り、後世につないでいかなければいけないという思いを強くしました。



<展望台から大齋原を臨む>



<古道の歴史を学びながら歩く>

熊野本宮大社にお参りし、明治 22 年（1889 年）8 月の水害で流されるまで、もともとの本宮大社があった大齋原（おおゆのはら）まで歩きました。ちょうど稲刈りの季節で、豊かに実った稲穂の向こうに大鳥居が見えると、留学生からは感激の声があがっていました。講師の先生から近年新しく建てられたものであることを教えていただきましたが、圧倒的な大きさにしばらく留学生の興奮は収まりませんでした。大齋原では、留学生のひとり「ここは自然そのもので、現在の本宮の場所とは雰囲気が違う」と話していました。

宿泊は川湯温泉の「まつや」です。留学生の中には日本に来てから温泉場に行くことはあっても、恥ずかしくて温泉につかることがなかったけれども、今回、初めて温泉を体験したという人もいました。温泉の快適なこと、お食事のおいしいことに留学生は大満足でした。夕食懇親会では、初日の感想、実際に熊野古道を歩いてどうだったかをそれぞれに発表してもらいました。ひとりの留学生のコメントです。「熊野古道や熊野三山を自分で歩いただけだったら普通の自然としか感じなかったし、世界遺産としての認識ができなかったかと思うが、今回、(WIN コンコードの) 後藤さんや世界遺産センターからご説明を受けて、特に歩きながら特定の場所でその場で江戸時代やもっと昔の話を聞き、昔の場面が頭

の中でイメージできました。さすが、昔の人はすごいなと、よく一か月もかかって大阪等の遠い所から歩いたなと思い、有意義な一日を過ごしました。また途中で道路がボロボロになっているのを見て、雨や土砂崩れ等の災害で自然の資産がこわれているのを、そのまま放置したら百年後の次の子孫が今の姿を見ることができるかという問題を認識しました。」参加者からは、充実した一日目に満足気なコメントが続きました。



<大斎原>



<熊野速玉大社>

翌9月6日、まず熊野速玉大社のお参りです。途中、神倉山の中腹に御神体の巨岩ゴトビキがそびえているのを確認し、速玉大社の境内には御神木「榊」の大樹を見上げ、自然への信仰を実感する機会となりました。また熊野川に沿って建てられた川原家（かわらや）を見学し、釘を使わず、組み立て・解体が簡単にできる家の作り方に、増水する前に解体し、水が引くとまた元の場所へ組み立てるという自然と共存した先人たちの知恵を知ることができました。

昼食後は熊野那智大社と那智大滝のお参りです。熊野那智大社までの階段は体力的に厳しく感じる参加者もいましたが、途中の景色がすばらしく、休み休み、登り切りました。青岸渡寺（せいがんとじ）から那智大滝をのぞむ絶景に、留学生たちはしばし写真撮影に熱中し、足を止めていました。那智大滝では、その壮大さに圧倒され、自然に対する畏怖の念を抱き、滝に手を合わせて神としてあがめる自然信仰に対する理解も深まった様子でした。

バスで大門坂まで移動し、古道を最後に少しだけ歩きました。坂を下りたところで集合写真を撮っていると、住民の方がシャッターを押してくださり、さらにご自宅の庭までご案内いただきました。かつては南方熊楠も滞在した大阪屋旅館だったというご自宅は旅館当時の建物は残っていませんが、日本庭園は見事で、急な雨の中、ご主人にしばし庭園のご説明をしていただきました。午後は天候が回復していたので油断して雨具を持たずに歩いたため、バスのある大門坂駐車場に着いた時には、皆ずぶぬれとなってしまいました。熊野の天候は変わりやすいということに留意すべきでした。





<那智大滝>



<大門坂下>

熊野をあとに和歌山へ向かう道中も、橋杭岩（はしくいいわ）、志原海岸（しはらかいがん）といった風光明媚な場所で休憩を取りながら、無事和歌山に到着しました。

車中では、共催者の WIN コンコードからもお言葉をいただき、今回お世話になった公益財団法人中島記念国際交流財団、和歌山県世界遺産センター、和歌山県教育庁文化遺産課、田辺市熊野ツーリズムビューロー、和歌山大学後援会、取材にご協力いただいたテレビ和歌山、紀伊民報、他関係者の皆様方に感謝を述べ、解散となりました。

ご協力いただきました方々に厚く御礼申し上げます。

2014年9月 和歌山大学国際教育研究センター